

【令和3年度 自己評価結果公表シート】

学校法人直江津龍谷学園 真行寺幼稚園

1. 本園の教育目標

(教育目標)

「浄土真宗の精神」にのっとり、宗教的情操の豊かな人材を教化育成することを目標とする。

(教育方針)

- 1) 「仏さまをおがむ子」 たくましい豊かな心をそなえた子
- 2) 「ありがとうの言える子」 感謝と協調のできる子
- 3) 「よく聞く子」 聞く態度を身につけ、探求と創造と自立を目指す子
- 4) 「なかよくする子」 助け合うことに喜びを感じ、仲間作りにはげむ子

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

(本年度の重点目標)

「なかよくする子」 助け合うことに喜びを感じ、仲間作りにはげむ子

幼稚園のホームページには、「人と人との関わりを大切に 一人ひとりの個性を認め 生きる力と思いやりを育みます」とある。

「人と人との関わり」とは、園児と園児だけではなく、園児と教職員、保護者と教職員も含まれる。私たち教職員は、「関わりを大切に」出来ているだろうか？

「一人ひとりの個性を認め」ているだろうか？個性を押さえつけたり、違う色に塗り替えたりしていないだろうか？

「思いやり」がある教育保育ができているだろうか？

自分自身に問いかけ、幼稚園教諭としての初心に帰ることを日々心がける。

～園児を助け寄り添い育むことに喜びを感じ、楽しく心豊かな関わりづくりにはげむ教職員～

(本年度の重点計画)

1) 「教育の質」向上のため活動見直し

活動や行事に関しては、かなり見直しをしてきたが、まだまだ毎日活動に追われているという現状がある。今年度の重点目標を達成するには、時間が必要である。

再度見直し、それぞれの活動を「ふり返る」、「考える」、「発展させる」という時間をしっかり設けたい。

限られた時間の中で、幼稚園でしかできない教育活動を行い、子ども達が自ら考え、意欲を持って活動

できるよう育みたい。

2) 遊びの「環境」を充実させる

教室、ホール、園庭の「遊び」の環境について、より遊び込むことができるよう教材や配置を工夫する。また、遊具やおもちゃなどがなくても、いかに子どもたちが楽しめるのか工夫をして欲しい。

自由遊び時間であっても、環境を整え、遊びが発展していくようなヒントや素材を与えて欲しい。

コロナ禍にあって、運動不足が心配される。「遊び」を通して、運動能力と体力を育む環境の創意工夫に努める。

「明日、幼稚園で〇〇をしたい!!」、「今日、幼稚園で〇〇をするんだ!!」という、喜びと意欲に満ちた子どもが一人でも多くあって欲しい。

3) 挨拶

昨年度も、学期毎に各学年の目標を出していただいたが、「挨拶」がなかなか難しい。「挨拶」をさせようとするから出来ないのか、形ばかりの「挨拶」だから続かないのか。。。

園児に対しては、教員目線、親目線の挨拶ではなく、ワントーン下げた安心感のある挨拶をしてみてもどうか。園児には強制せず、挨拶をしてくれたら「ありがとう」とお礼を言ってみてはどうか。挨拶って素敵なだな、なんだかあったかいな、と子どもたちに感じてもらい、小学校以降や大人になって、心から優しい挨拶ができるようになってくれたらうれしい。

4) 園運営の見直し

上越市でも急速な少子化が進んでいる。長期的な園運営方針を見直し、充実した教育環境を持続させるとともに、より一層、教育の「質」を高める。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	理由
「教育の質」向上のため 活動見直し	A	昨年度に続き、コロナ禍にあって行事の縮小や活動が制限された。縮小制限2年目ということで、昨年度の反省を活かし、より良い行事と活動を行うことができた。各行事については、早い時期から取り組むことによって、子どもたちの体力的、時間的負担を減らすことができた。1日の活動の中でも、行事の練習や制作だけでなく、他の活動時間も十分に確保することができた。また、子どもたちの意見を取り入れ、工夫改善するなかで、より練習や制作に意欲的に取り組む姿が見られた。 しかしながら、全体的には「ふり返る」「考える」「発展させる」という時間は、まだまだ必要であるが、活動を見直し、「教育の質」は向上された。

遊びの「環境」を充実させる	B	<p>同じ玩具や遊具であっても、配置一つで遊び始める環境が整うが、安全や子どもたちの慣れや親しみ度を優先するとなかなか配置を変えることが難しいことが分かった。</p> <p>長年、安全や子どもたちのことを考えたものが蓄積されて出来てきたのが現在の形になっている。</p> <p>活動では、年長児の2学期の後半に、数日間にわたって廃材遊びをした。十二分な廃材を用意し、自由に制作などに取り組んだ。1日で終わりではなかったため、今日はこれをしてみよう、明日はこんな工夫をしてみよう、お友達のアイデアを参考にしようという「自ら行動する」姿を見ることができた。</p> <p>単発での活動ではなく、長期的に計画して、遊びの「環境」を整えることが、今後求められるものである。</p>
挨拶	A	<p>朝、園長が駐車場に立っていて遠くであっても、挨拶してくれる子が増えてきた。また、朝と帰りに、本堂に入って手を合わせてお参りして下さる親子が増えており、うれしいことである。</p> <p>日頃の挨拶も、少しずつではあるが、優しい気持ちのこもった挨拶をしてくれる子が増えてきている。</p> <p>やはり、形ばかりの挨拶や強制をするよりも、教職員が素敵な挨拶を続けていく方が、本物の挨拶ができてくるのではないかと感じている。</p>
園運営の見直し	A	<p>上越市の方針転換により、令和4年度より幼児教育、乳児保育の自由化が進められることになった。</p> <p>これまで認められなかった、幼稚園での保育枠が認定されるようになった。当園でも2歳児6名、3歳児以上各8名の計30名が保育枠を確保できたことにより、令和4年度から認定こども園（幼稚園型）に移行するべく準備をしている。</p> <p>保育園でも教育枠が認められるようになり、市内9保育園がこども園に移行する。急激な少子化の中、より「教育の質」を高め、環境を充実させ新入園児を獲得しないことには、園を維持していくことは難しくなっている。</p>

4. 学校評価の具体的な目標や総合的な評価結果

評価	理由
A	取り組むべき課題について、全教職員が共通に理解し、実践することができた。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
<p>「主体性」と「協調性」を育てる行事への移行</p>	<p>「運動会」「作品展」「お遊戯会」「音楽発表会」が、当園における大きな行事である。どの行事も、協調性を高め育てることに重きをおいてきた。しかし、幼稚園教育要領には「主体的」という言葉が多く見られるようになり、子どもの主体性を育てることが求められている。</p> <p>本年、自由遊び時間に年長児から「何をして遊んでいいかわからない」との言葉をもらう。長年、幼稚園に携わっているが、はじめての言葉に戸惑った。子どもは勝手に遊ぶものだと思い込んでいたが、保護者や保育者が与えすぎていて、自分で考えて遊んだり、何かをやりたいという意欲が少なくなってきたのかもしれない。</p> <p>「主体的」とは、何かを一方的にやらされたり教えられたりして技術を獲得するのではなく、内的な動機が行動の源となり、そのことが結果的に技術の獲得につながる。子どもの意志をもって行動する力を育てる行事への移行が必要となっている。</p> <p>教職員自身の学び、園児への教育、保護者への周知などを考えると1年や2年で変わっていくことは難しく、5年計画での移行を考えている。令和4年度は移行元年となる。</p>
<p>安全の再確認</p>	<p>安全の確認を改めて行う。安全については、点検や改善を行ってはいるものの、軽度な怪我や事故がなくなるのが現状である。</p> <p>「ヒヤリハット報告書」や「怪我報告書」を細かく記入し、その結果を分析し、安全性を高めていく必要がある。</p> <p>火事、地震、豪雨、大雪などの災害対策、不審者などの犯罪対策、通園退園時やお散歩の事故対策についても再度見直し、現状に即した対策を実行する。</p>
<p>認定こども園への移行</p>	<p>令和4年4月から、認定こども園（幼稚園型）に移行するにあたり、園児や保護者にとって不安や不利益がないように、新潟県や上越市の関係部署と連携して情報提供などを確実にを行う。</p>

6. 学校評議員の評価

学校評議員さんからは、適切に運営されていると評価いただきました。

以下、評議員さんからいただいたご意見などです。

- ・教職員一丸となって、教育保育に取り組んでおられる姿に敬意を表します。
- ・コロナ禍での行事運営は、大変だったと思います。各行事ごとに様々な対策を考えられており、保護者も安心して参加できたと思います。
- ・コロナが収束したら、お年寄りや地域の方との交流の場を設けて欲しいと考えます。

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。

以 上